



中日新聞東海本社
浜松市東区葉新町45番地
〒435-8555 電話 053(421)7711



●渡辺利夫氏の講演に聞き入る中日懇話会員 ●日韓、日中関係を中心に講演する渡辺利夫氏 15日午後、浜松市のホテルコンドル浜松で

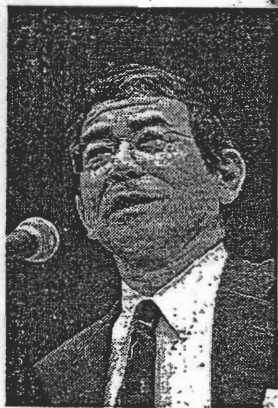
第291回中日懇話会

渡辺利夫氏(拓殖大学)が講演

第二百九十一回中日懇話会が十五日、浜松市のホテルコンドル浜松で開かれ、拓殖大学学長の渡辺利夫氏が「最近の東アジア情勢 一日中、日韓関係を中心として」と題して講演した。韓国と中国の反日ムードの高まりは「住民の愛国主義をおおるために意図的に作られたもので今後とも変わらぬ」と指摘。適切な距離を保ちながら、国益を見据えて爾々対応していくべきだと訴えた。

講演要旨

日韓関係は今後も改善しないだろう。韓国は中国やロシアの大陸勢力と、海側の日本に囲まれ身動きできない地域。幾度も侵略を受け、血族が結束して生きてきた民族。それがアイデンティティーになってい



わななへ・としお 19 経て2000年から拓殖大 39年、山梨県生まれ。70 国際開発学部学部長。05年 年慶応義塾大学院経済学 から現職。著書に「成長の 研究科博士課程修了。筑波 アジア 停滞のアジア」 大教授、東京工業大教授を (吉野作造賞) など多数。

対中韓関係 国益見据えて対応を

激な経済成長を遂げた時代とは様変わりした。日本側も謝罪を繰り返すだけの腰が引けた対応では何も変わらぬ。中国との関係悪化の発端は、九四年に江沢民政権が始めた「愛国主義教育運動」。中国では愛国は反日を意味し、日本軍の残酷性を訴える教育実施要項を作った子供たちに反日運動を植え付けていった。当時、経済規模が日本の約一割、多くの日本企業が進出していてリスクがあった。にもかかわらず反日運動を強化したのは天安門事件が原因の一つ。同じ時期に冷戦が終わり、ソ連共産党も消滅。中国共産党は生き残りをかけて江沢民政権を登場させたが政権基盤も弱く、人民解放軍との人脈も弱い。そこで求心力を高めるために禁じ手ともいえる反日カードを切らざるを得なかった。以来、何かと言えは歴史

認識問題を口にするようになった。胡錦濤政権で緩和を試みた形跡はあったが、草の根に根付いた反日感情は深く浸透し、厳しさを増した。最近では一昨年四月の北京日本大使館の投石事件が記憶に新しいが、暴徒化したのは農村部から出稼ぎにきた都市部の労働者。悲惨な生活を強いられている彼らは、不安定な政治基盤の温床でもあり、すでに膨大な規模に膨らんでいる。中国政府も私たちの矛先を日本に向けるように操作していると考えれば、反日の土壌はなくならない。対中交渉に誠実に当たっても何も変わらないのが現実だ。日本は日米同盟を基軸に、アリューシャン列島から東南アジア、インド、豪州を結ぶ海洋国家連盟に韓国を引き入れ、中国やロシアをけん制する道を目指すべきだ。